

センサー

1976年9月号 創刊号

東京温度検出端工業会 会報

巻頭言

会報発行にあたって

会長 柴 崎 昌 雄

東京温度検出端工業会が、昭和48年6月に発足して、既に3年余の年月を重ねてまいりました。その間、皆様の要望であった会報を今回発刊するに至りました事は、加盟会員皆様と共に衷心喜びにたえないところであります。

わが工業会を結成するに至った動機が、産業界の急速な高度成長に伴い、温度検出端業界においても、その成長に対応し、業界内部の強固な結束を形成し、産業界に寄与することであった事は、既に御承知の事と思います。

工業会独自の活動目標の主たるものとして、関連工業界をはじめ、大手メーカーに対しての協力要請及び、技術水準の向上、製品の標準化等が挙げられますが、これら第一次目標の成果は着々と結実の過程を踏んできており、今後、技術面におきましても東京温度検出端工業会を中心に、新JIS規格に対応し、新技術の開発など従来の殻を脱却した科学的向上に、たゆまぬ研鑽を積むことが、わが工業会の一層の強固な発展につながると確信する次第であります。

一方、現実の産業界は、高度成長の急速な伸長から急速低成長への変遷過程にあり、企業方針の転換等の対策を考えねばならない時であります。にもかかわらず、従来から業界には相互に過度な競争を展開する傾向がありこれの業界に及ぼす影響を考えたとき皆様の良識と展望による自重をお願いせざるを得ません。

今般の会報の発刊にあたり、この会報が、今後の当工業会の活動に多大なる効果をもたらすことを確信し、また加盟各会員の発展を念じ、発刊のことばとさせていただきます。

お知らせ

◎第16回 全日本科学機器展開催

東京科学機器協会と日本工業新聞社が主催する、第16回全日本科学機器展が下記により開催されます。この展示会は当工業会も協賛して名を連ねております。また会員会社の中でも数社がこの展示会に出展する予定と聞いています。

会 期 昭和51年10月12日（火）～16日（土）5日間

会 場 東京晴海・東京国際貿易センター（新館）

開催時間 午前10時～午後5時

入 場 料 無料

◎防爆試験設備について

近年プラント等の爆発、火災事故が頻発したのに伴い安全対策の強化が求められ、その一環として防爆構造電気機械器具の安全性確保のため、それらの製造者に労働省の型式検定以前の社内試験と製造段階での品質管理が求められております。しかしその試験設備は莫大な費用を要し一企業での設置は困難と思われま。

当会では有志会員数社の御協力を得て ①共同設置 ②既存設備の借用などいろいろ調査して参りました。その結果「船舶機装研究所」（都下東村山市）の設備が安い費用で借用出来ることになりました。

就きましては当会として一括申込みをしたいと思っておりますので利用御希望の会員は事務局へ御連絡下さい。

◎会報の創刊に寄せて

明陽電機株式会社

取締役企画室長 小 沢 勇 蔵

当工業会会報の創刊を心からお喜び申し上げます。

当工業会が発足して早や満3年を迎えました。現在、わが国経済をとりまく環境は、石油ショックに始まる世界的経済変動、並びにわが国産業界、特に造船業界への打撃による海運市況や船舶需要の低下等の面に現われて、構造変化への要請等に対処せねばならないことなど深刻な状態であります。

この現状と将来を展望し、当業界が結束していろいろな問題に対処し会員業者の繁栄を図るためには、当会と会員間の信頼を第一とし親睦を通じて企業間の和、ひいては人の和を得るなれば当会の目的を達することができると思います。

それには企業における懸案の検討、情報の交換、人間関係などの場として十分活用するとともに、会報が「共通の話し合いの場」としての役割を十分に果されますようお願いする次第であります。

◎工業への期待

新栄熱計装株式会社

取締役社長 杉 本 嘉 正

昭和27年計量法が施行されて以来、我国の工業用電気温度計はめざましい進歩をとげ、現在では広範囲に利用され、温度検出端の需要は急速に増大しました。

従来計器メーカーの下請的存在でしかなかった検出端の製造と供給は、我々専門メーカーに委ねられるようになりました。しかしその価格は昭和49年迄の20年間他の殆ど物の物が上昇し続けているのに全然変わらず、ただ需要の増加でバランスをとってきたという珍しい業界であるといえます。

この様な状態を正しい軌道に乗せるため、昭和48年6月当工業会が結成され、会を中心に業界全体が協力して、技術の向上、製品の標準化、価格の適正化等幅広い活動を、会員相互の連絡協調をもとに行ってきました。その成果に深く敬意をはらうと同時に、今後の発展に大きく期待して止みません。

今般ここに会報を創刊するに当り役員及び事務局諸兄の御努力に対し深謝する次第です。

◎会報創刊に際して

古河特殊金属工業株式会社

常務取締役 岡 崎 信 和

このたび会報の創刊に際しましては、御関係各位の御尽力に敬意を表します。と同時に御祝いを申し上げます。

48年6月当会が結成されて以来、会員も三十数社と盛会を極め、温度検出端及びその関連機械の生産に6億円強を示していることは現代産業の目ざましい技術進歩と共に、今後の尚一層の業界発展の基盤を見る様な思いが致し、会員の一人として御同慶に堪えません。

我々メーカーはより一層の技術研鑽を計り、最良の製品を適正価格で需要家に届ける義務をもつものであり、この遂行のため会報が会員相互の疎通、協調を保つ機関となれば発刊の意義も大きなものになるものと存じます。

◎工業会の活動について

日本合金製造株式会社

取締役 技術部長 加藤 伸 司

工業会は創立以来3年余着実なる発展をされ、この度機関紙が発行されるはこびになりましたことは誠に御同慶の至りであります。

この間、講習会、見学会を開催され、特に日本鋼管京浜製鉄所、日本原子力東海研究所の見学等は啓発されることが多く、参加者として深く感謝しております。

この度計測器工業会に賛助会員として入会され、今後益々技術面での活動が大いに期待されるのは誠に喜ばしい次第であります。今迄は懇親的な活動が主であったように感じられました。また技術委員会等の設置やその活動も工業会の大きな事業であると思えます。

会の名称も「日本温度検出端工業会」と変え、日本の全同業会社が一丸となって活動することが会員各社の将来に繁栄をもたらし、会の発展と、国家の隆昌にもつながるのではないのでしょうか。切望してやみません。

◎専門部会の活動

デグサ・ジャパン株式会社

専務取締役 小竹 実

工業会発足以来3年余り、柴崎会長、林副会長、始め事務局の熱意溢れる会運営意欲が実を結び、着々と貴重な足跡を残していくことは、会員として誠に御同慶に堪えません。

願いますとこの会の主旨は、温度検出端の製造業者及び供給業者の、親睦、品質向上、業界の調査、情報交換が目的であると存じています。その意味ではオイルショック後タイミング、またその専門部会の効果的な活動は全く適切であったと今更ながら設立委員に敬意を表するものであります。

私が末席をけがす貴金属部会も国の経済に影響力の強い白金だけに工業会の方針は、業界に大きな結果を与えるものと自負しています。その白金を扱う私達は一種の正義感が必要で、営業関係者は皆拝金主義者となれば人間よりも白金を高く評価する余り、白金の奴隷になり下らぬよう誇りと、自信をもって営業を行いたいと兼ねて思考しているものであります。

会の動き

◎貴金属素線部会

6月25日徳力本店に於て貴金属素線部会を開催。出席者、林副会長、関根・高浜(徳力)、竹見・今井(石福)小竹(デグサ・ジャパン)、日紫喜(田中)

白金地金価格の変動について検討、今月に入り自由市場に於ける価格の高騰が甚しく、これにつれて、生産者価格(PP)もあがるものと想定される。恐らくトロイオンス175ドル位までは行くだらう。貴金属素線の価格を改定せざるを得ない事態である。

◎七月の理事会

7月22日西村工業株式会社会議室に於て理事会を開催、出席者、林副会長(林電工)、西村(西村工業)、則武(山里産業)、柴崎(大昌電機)、佐藤・木村(助川電気)、新井(中外商工)、八木(事務局)

1. 新入会希望、大日商事株式会社 紹介者 大昌電機(株) 入会金一万円、会費Bで入会承認。
2. 日本電気計測器工業会からの連絡事項につき事務局より報告
3. 見学会、講習会等の予定を次の様に決定
 - ◎9月 都立工業技術センター見学会、協議会(懇談会)
 - ◎10月 日本化学陶業(株)工場(大阪府堺市)見学会(1泊)
 - ◎11月 岡崎製作所佐藤常務IEC会議の報告会
 - ◎12月~52年3月 北辰電機他と折衝中
4. 会報は9月に第1号を発行することとし、早急に編集委員会を開く。
5. 各専門部会長に依頼して標準価格の見直しを行う。

資料

金額=単位百万円。%=前年比

工業計器生産実績(通産省機械統計月報による)

	50年1月～12月合計	51年1月	51年2月	51年3月	51年1月 ～3月	50年度合計	51年4月
工業計器 (%)	104,740 88.1	7,262 84.9	7,537 78.5	10,987 91.8	25,788 85.6	100,400 84.7	7,910 110.2
プロセス用 工業計器 (%)	63,517 89.6	4,503 85.8	4,640 82.7	6,023 97.5	15,166 89.0	61,642 73.6	5,019 114.6
発信器 (%)	22,817 88.4	1,692 89.0	1,676 78.7	2,156 123.0	5,524 95.5	22,557 89.5	1,732 118.8
受信器 (%)	16,005 90.0	1,191 86.9	1,012 71.6	1,467 87.7	3,670 82.4	15,219 84.8	1,337 121.4
調節器 (%)	14,218 85.6	993 85.3	1,069 85.9	1,259 81.3	3,321 83.9	13,582 82.4	1,160 116.6
操作器 (%)	4,121 93.7	194 69.0	327 109.0	400 80.2	921 85.3	3,962 87.3	251 69.9
伝送器 (変換器中継器) (%)	6,356 101.0	433 81.1	556 105.9	741 105.1	1,730 98.1	6,322 846	539 115.9
その他の工業計器 (%)	34,578 84.3	2,174 75.2	2,326 75.0	3,773 84.5	8,273 79.1	32,391 80.4	2,211 90.8
データ処理装置 (%)	6,645 95.5	587 143.9	571 64.3	1,191 89.5	2,349 89.4	6,367 84.3	680 186.3

昭和51年9月発行 No. 1

発行所 東京温度検出端工業会

事務局

東京都品川区西五反田1-13-11(西村ビル)

電話 494-0671